

第354号

2012年

5月30日

どついたちニューズ

全損保日勤外勤支部

東京都中央区銀座5-13-7

東銀座東京海上日動ビル1階

電話 03-3542-9857

FAX 03-3542-9858

教宣部 発行

2012春闘 大綱妥結

業績賞与算出スキーム

「従業員の働きが反映される 制度にすべき」と改めて強調

支部闘争委員会は、5月29日に団体交渉を開催し、2012年春闘について大綱妥結しました。これに先立ち、前日18時までに承認を求めた、今次春闘を收拾すべきという支部闘争委員会の判断については、全分会一致で承認されました。

交渉内容は以下の通りです。

日時】	2012年5月29日(火) 18時から18時10分
場所】	新館15階A会議室
出席者】	組合側) 澤田・及川・田中・真木・米沢谷 会社側) 小西・南井・橋詰・妻木・桑田

組合) 2012年春闘で、私たちは「出向者とシニア社員について和解協定通りの運用をすること。職種変更者に対しても、和解協定で決めた労働条件の適用をすること。

シニア社員の特別連続休暇を新設すること。業績賞与算出スキームは従業員の働きが反映されるスキームにすること」を求める要求書を3月15日に提出した。

会社回答は、出向者・シニア社員について、和解協定を遵守した回答になっている

が、職種変更者を出向者と同様に扱うこと、シニア社員の特連新設という要求には答えておらず、その後の交渉でも回答は変わらなかった。

会社が和解協定を遵守していることに対しては一定評価するが、その他の要求に答えなかったことについては誠に遺憾である。しかし、職種変更者の要求とシニア社員の特連の要求を、今後も継続して要求していくこととし、不本意ながら今春闘を收拾することを判断した。

收拾にあたって、業績評価ポイントの問題点について、春闘交渉の場でも主張したが、本日の団交の場で改めて問題意識を述べる。もともと当社の賃金は、制度上、年収に占める賞与の割合が高い。そのうえで、賞与の中でも業績賞与の占める割合が三分の一となっている。ということは、業績賞与が、私たちの生活に与える影響はきわめて大きい。会社は、賞与の源泉は利益だと言うが、業績賞与スキームで採用する指標の内訳は、利益指標が70%、売上指標が30%となっている。昨年度で言えば、売上指標の目標値に対する達成率が、正味収入保険料101.1%、営業統計保険料（一般種目）101.2%、営業統計保険料（長期性商品）103.1%と、東日本大震災や台風などの自然災害の対応に追われながらも、目標を達成した。このような従業員の働きがあっても、売上指標の業績評価点は37点にしかならなかった。組合は、業績評価点100ポイントが基本の月数と考えており、毎年従業員の働きが反映されず、業績評価点100ポイントを切り、従業員の生活が厳しくなることに、大きな問題意識を持っている。また、昨年度は修正利益260億円というプラスが出ている中で業績評価点31.3点であったが、今年度は修正利益が赤字にもかかわらず、業績評価点37点となり大きな矛盾が生じた。このことについては会社も問題意識を持っているのかもしれないが、実質的に制度が破綻していることのあらわれである。一方で、昨年の春闘で、組合は従業員の働きが反映されない業績賞与スキームで算出された業績評価点にこだわらず、東日本大震災の対応などに頑張った従業員の働きに対して、臨給の上積み求めた。今春闘では、業績評価点にこだわらず、若干ではあるが上積みをした会社姿勢に対して一定の評価はしている。

今春闘交渉の中で、会社から、業績賞与スキームの見直しについての態度表明があった。春闘交渉の中でも述べているので繰り返しになるが、誰にも納得感がある、従業員の働きが反映されるような仕組みを取り入れるよう、改めて要求する。このことは、全従業員の共通した要求であると確信する。また、提案時には十分に労使協議ができる時間が確保されるよう、強く要請する。

会社) 今春闘についての組合の考え方については了解した。早々に手続きを進める。

業績賞与の算出スキームについては、時期は明言できないが、新しい業績賞与制度を検討している。業績賞与のベースは利益と考えているが、社員の働きに応えられるようなものをとの組合の要望については承知した。

以上